



第3回日本・タイワークショップ帰国報告会にて：中央から社会開発福祉局パコン局長、その右側に JICA タイ事務所米田所長、右側2人目に人身取引対策部サワニー部長

MDT 通信を読んでくださっている皆様、今年も大変お世話になりました。皆様が良い年を迎えられることを、プロジェクトスタッフ一同、願っております。以下、12月のプロジェクト活動を紹介します。

高校生に人身取引啓発活動を実施(12/13)

タイでは、新しい携帯や流行の洋服が欲しくて、10代の若者が売春行為に手を染めるケースが報告されています。出会い系サイトなどを介したケースも少なくないようで、タイ社会でインターネットやスマートフォンが急速に普及する中、こういった若者は人身取引の高いリスクにさらされていると言えます。

こういった背景を受け、タイ東北部シーサケット県で、高校生約100人を対象にピアサポートメンバー(LOL)による人身取引啓発トレーニングを実施しました。LOLは、プロジェクトが現地NGO女性財団(FFW)と連携して支援している元被害者による活動です。トレーニングは、生徒自身が、人身取引のリスクから自分や友人を守る知識を身につけることを目的に実施しました。

LOLメンバーたちは、高校生に分かりやすく人身取引の実態を知ってもらうために、ネットで外国人と知り合った女子学生が、結婚詐欺に遭いヨ

ーロッパに連れて行かれ売春を強要されそうになる、というドラマを演じました。



生徒たちによるグループディスカッションの様子

その後、人身取引の予防と保護に関する講義を挟み、生徒たちはグループに分かれ、地域にはどのようなリスクがあるか、被害に遭ったらどうするか、トレーニングの学びをどう活かしたいか話し合いました。生徒たちからは、地域では勧誘や誘拐、騙しなどのリスクが見られ、人身取引から身を守るためトレーニングで学んだことを友人や家族に伝えたい、人身取引が起こらないように防止に関与したい、といった意見が挙げられました。

チェンライ県で郡レベルMDTの設置に向けた研修を実施(12/20-23)

プロジェクトは、3年目に当たる今年から、地方MDTの強化に本格的に取り組んでいます。その一環として、チェンライ県で郡レベルMDTの設

置を支援するべく、パイロット郡であるチェンコン郡とウィエンケン県で、関係者に対して研修を実施しました。

チェンコン郡は、中国やラオスからの入国者が多くいるのと同時に、同郡を経由してラオスや中国に行く欧米人観光客も多い土地です。また、現在、ラオスとの橋の建設が進められていることから、人身取引ケースが顕在化することが懸念されています。



チェンコン郡における橋の建設の様子

チェンコン郡の研修には、郡役場や郡警察の代表、郡の下に位置するタンボン自治体の代表、学校教員、看護師、村のボランティアの他、チェンライ県入国管理官、NGO スタッフ、元被害者によるピアサポートグループ代表など幅広い関係者 30 人近くが参加しました。

ウィエンケン郡は、チェンコン郡の様に欧米からの外国人観光客は多くありませんが、ラオスと陸路・水路で国境を接している為、人身取引ケースの発生リスクが高い土地です。

ウィエンケン郡では、郡警察、郡保健所職員、郡開発スタッフ、ノンフォーマル教育スタッフ、タンボン自治体の代表、看護師、村のボランティアなど 20 人が参加しました。

各郡で 2 日間行った研修では、1 日目に法律面及び被害者保護の観点から人身取引を理解する為

の講義を入れ、2 日目に郡レベル MDT 立上げに向けた講義及びグループワークを実施しました。2 日目の講義では、MDT メンバーとその運営、被害者保護の為の 11 のステップをプロジェクトが作成した MDT 実施ガイドラインに沿って説明しました。また、人身取引におけるジェンダー視点の重要性についても講義しました。



グループワークの様子

グループワークでは、それまでの講義内容を参考に具体的な事例の分析を行い、チェンコン郡では、郡レベル MDT メンバーとなる組織の特定も行いました。ウィエンケン郡では、MDT メンバー組織の特定には至らず、参加者個人として人身取引対策に果たせる役割の確認に止まりました。両郡でこのような差が出てしまった背景には、チェンコン郡の参加者にとって人身取引はより身近で、実に半数近くが被害者保護に関わった経験を持つことが挙げられます。

今後、郡の特徴と関係者の経験に見合ったフォローアップ活動を検討し、郡レベル MDT の立ち上げをサポートしていく予定です。

<http://www.bangkokpost.com/news/crimes/270329/sex-trad-e-lures-girls-in-early-teens>